

2020年5月7日～10日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果とホタテガイラーバの分布状況についてお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

海面から20m深までの水温は5～8℃台で、ほぼ平年並みとなっています。20m以深では、湾内はほぼ平年並みとなっていますが、湾口部 (St.19,21) の底層や湾外 (St.5,8) の中層には平年よりも1～3℃温かい水が分布しています。

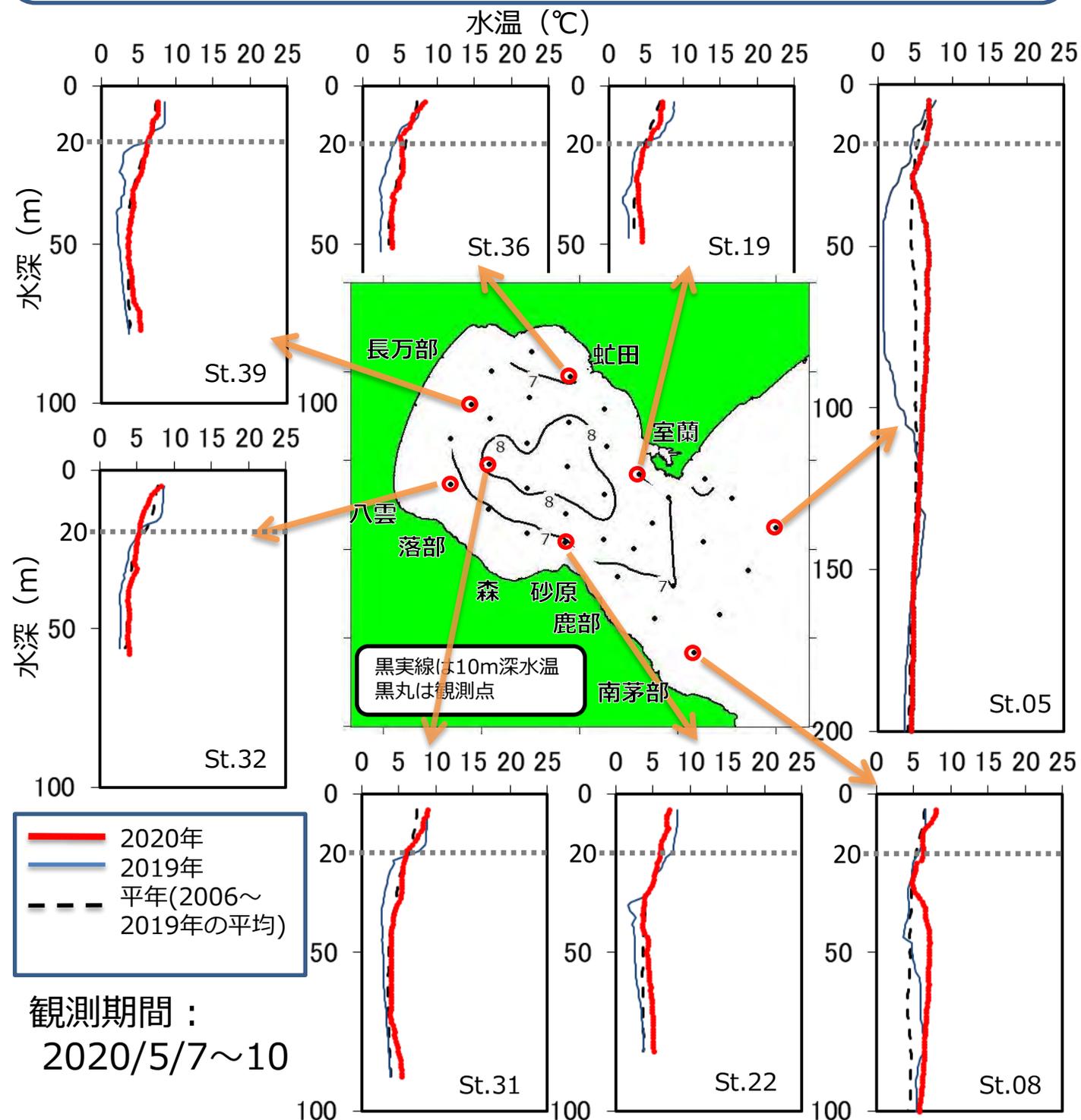


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と20m深における水温の水平分布

【水平分布：水温，流向流速，ホタテガイラーバ】

深度10mの水温は6~8℃台と平年並で、湾中央部は8℃以上と周囲よりも高くなっていました（B）。これは時計回りの渦の形成により（C）、表層水が湾中央部に集められたためと考えられます。ホタテガイラーバは湾内に広く分布し（D）、平均密度は454個/トンで前年同時期（45個/トン）の約10倍でした。また、湾中央部で1,419個/トンと最も多く採取されました。

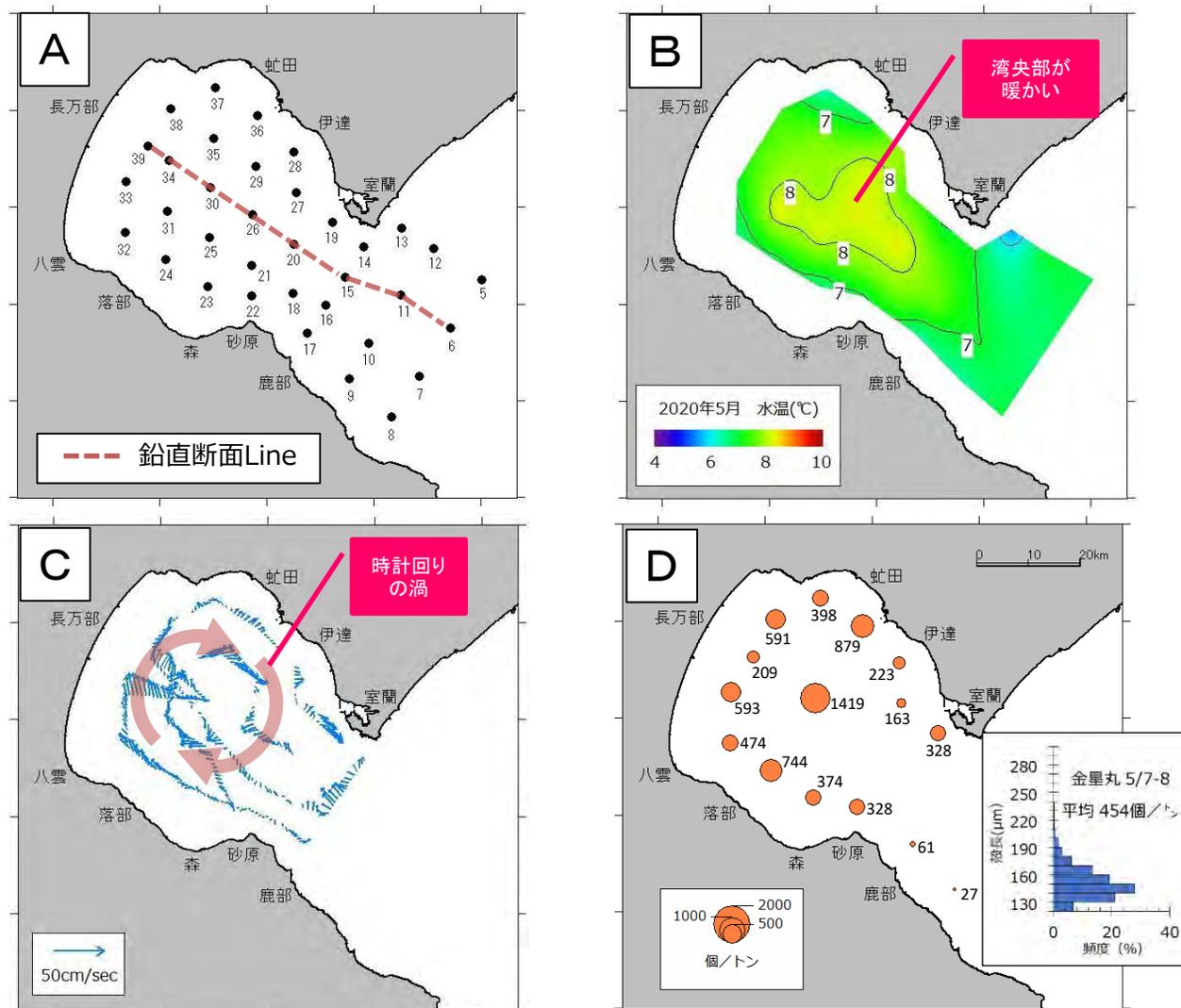


図 A:調査点図, B:水温の水平分布（深度10m）, C:流れの分布（深度13m）, D:ホタテガイラーバの分布

【水温，塩分の鉛直断面分布】

湾内の表層には、河川水の影響を受けた高温低塩分水（水温6℃以上，塩分32.0以下）が広がっています。また、湾外の深度30m以深には津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）が分布しています。

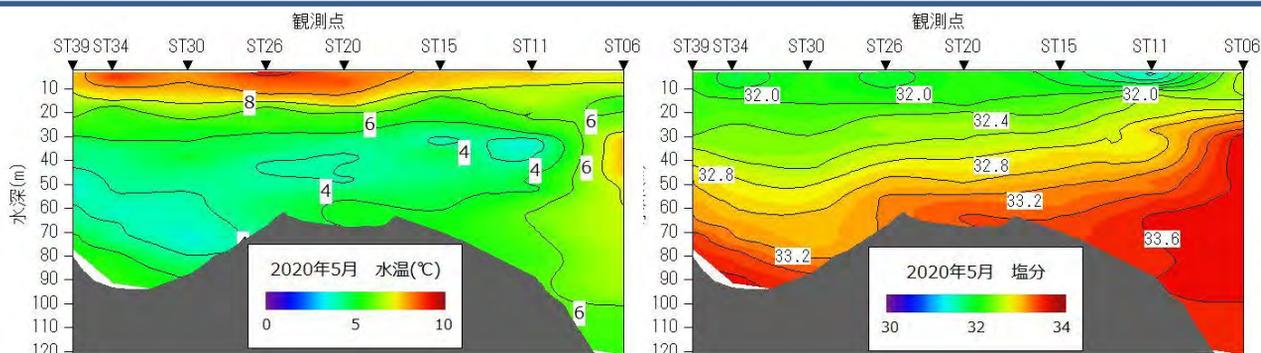


図 水温・塩分の鉛直断面図（断面上部の▼は観測点）